

## 川 柳

## 【小学1年生・2年生】

特 選 かわをみてさかなせんびきおおすぎだ

城西小学校2年 秋山 王佑

(評) たくさんの魚を「さかなせんびき」と、ひょうげんできました。ほんとうにたくさんの魚がおよいでいるようですがよくわかります。「せんびき」のひょうげんのかたは、百点です。いろいろな、ひょうげんのかたをさがしてくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 ブランコをぐんぐんこぐよとべそうだ

城陽小学校2年 疋田 悠翔

(評) ブランコをこいで空をとぶという大きな思いつきに感心しました。まい日の、遊びの中でたくさんのイメージをふくらし、楽しい句をいっぱいつくってくださいね。すべり台をすべったら、なにを思いつくかな。次は、どんな句ができるか楽しみです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 ゆめのなかブタイでおどるバレリーナ

城北小学校2年 大鳥井 理乃

(評) 句をよんだだけで、あなたのみらいのゆめのことや、まい日学校のべんきょうもバレエもがんばっているようですがよみとれます。「ブタイ」と「バレリーナ」をカタカナであらわしているのが、よりゆめが強く伝わります。バレエと同じくらい川柳もがんばってくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 おとうとはぎゅつとするとうれしそう

平田小学校2年 北川 結優人

(評) 「ぎゅつとする」のことで、あなたが弟をだいじにおもっている気持ちがよくわかります。

中七音に自分の書きたいことの半分いじょうをあらわす言葉ことばを見つけることがだいじです。大せいこうでした。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 うでをふりスタートダッシュで一とうしよう

高宮小学校2年 堀田 悠介

(評) はじめのことば「うでをふり」で、力をこめてがんばったようすがよくわかります。一とうしようおめでとう。よかったですね。でも十七音になっていないことがざんねんです。リズムがよかったです。えらびましたが、十七音になるようなことばをさがしましょう。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

佳作 だいすきなみんなとそらをとんだんだ

城東小学校1年 久保田 悠月

佳作 おとうさんおならをならすふうふう

城西小学校1年 西口 夏帆

佳作 えんぴつをいつもけずってちいさいよ

城西小学校1年 西澤 柑奈

佳作 さむいひはおでんをたべてぽっかぽか

城西小学校2年 今福 斗理

佳作 むずかしいほうちようさばきなれたいね

若葉小学校2年 栗田 幸来

佳作 かえるがねけるけるりうるさいな

城西小学校1年 植田 初花

入選 ともだちとたのしくはなすかえりみち

城西小学校1年 松田 悠那

入選 さくらんぼまるくてかわいいおいしそう

城西小学校1年 岩崎 春喜

入選 あつい日はかきごうりたべてきんきん

城西小学校2年 竹内 諒

入選 ひるやすみかげにはいつてきもちいいな

城北小学校2年 上坊 聖

入選 電車の中いろんな人がいっぱいいる

城北小学校2年 田中 陽樹

入選 てづくりのべんとうおいしママのあじ

平田小学校2年 圓城 結梨奈

入 選 おちばとねはながきれいだはっぱ

城陽小学校1年 林 佑月

入 選 大玉さんそっちじゃないよこっちだよ

城陽小学校2年 西崎 千桜

入 選 にちようびおにいちゃんときかなつり

城西小学校1年 辻 南美

入 選 ランドセルいつもいっぱいはいってる

城西小学校2年 星野 凜



【小学3年生・4年生】

特 選 どんぐりをいっぱいあつめやじろべえ

城陽小学校3年 八尾 一咲

(評) どんぐりを集めて「やじろべえ」にして遊んだ。どんぐりとやじろべえの組み合わせがおもしろい。やじろべえにも、いろいろな作り方があります。ようすをそぞろうすると楽しくなりますね

(彦根文芸協会 浅野 忍)

特 選 ふうせんをふくらましたらめがしろめ

佐和山小学校3年 中西 智陽

(評) 風船をふくらますと、大きな風船だと息が苦しくなりますね。思いきり息を吹きこんだときの「めがしろめ」がおもしろい。「つかれたよ」とか、「ふらふらになつた」と思わず書きますが、目のことを見つけたところがいいですね。「めがしろめ」のところは、「目がしろめ」と漢字を使うとわかりやすい句になりますよ。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

特 選 このみちはいくひといないあきのくれ

佐和山小学校4年 三浦 成世

(評) あまり家のない道なのかな。通りにくい道なのかな。秋のくれに人の行き来が少ないさみしい様子をきちんととらえています。「いくひといないさみしいな」という思いを「秋のくれ」と下五しもごにしたことが生きています。すばらしいです。もっとたくさん川柳を作って楽しんでください。知っている漢字は使いましょう。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 ドキドキだせんこうはなびおちないで

城南小学校4年 國安 祐衣

(評) 大人もみんな同じ思いです。せんこう花火は、最後まで火花をちらして落ちないでと思いますね。その気持ちを「ドキドキ」に願いをこめています。最後に火の玉がポトリと落ちた時、みんなが「あーあ」とため息をついているようすをそうぞうさせる句です。

小さな事でも川柳になります。もっと楽しんでください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 雨の音はじけてまるで音楽会

城東小学校4年 中田 亜沙美

(評) トタンや窓や雨どいなどに雨が落ちると、いろいろな音が出ますね。ほんとうに音楽会の様なメロディになります。雨の音に注意して聞いていると、そんな気になりますね。おもしろい句です。

気になった事を句にして、川柳を楽しんでください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 本を読むゆめの世界入ってく

城東小学校4年 佐藤 愛瑠

(評) 「ゆめの世界へ入る」って、どんな本を読んだのだろう。いろいろな想ぞうをさせる表現です。ゆめの世界を見ることができたのかな。作者はゆたかに思いえがける人ですね。このような夢をえがいてもっとよい川柳をつくってください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 登校中わたしは歌を作った

城北小学校4年 横井 愛子

(評) 登校中なので事故に気をつけましょう。何となく歩いていても歌や川柳はつくれることがあります。うかんだときは、すぐにメモをしてあとでまとめて完成させるようにしてください。ごはんを食べたり、テレビを見ていて句がうかぶこともあります。どんどん川柳を楽しんでください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 消しかすが教えてくれたがんばりを

平田小学校3年 守山 生真

(評) 消しゴムのかすがいつししょうけんめい勉強したことを証明してくれた。おもしろい発見ですね。「消しかす」はうまくできなかったときもあきらめずにがんばった証です。この調子で川柳をどんどん作り、見直してまた作るようにするとよい句が生まれます。努力はかならず結果にあらわれると信じましょう。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 バーンバンきらきらひかるよの花

城北小学校4年 井川 泰芽

(評) 「きらきらひかるよの花」花火の上がる音、ひらいた様子を「よるの花」とあらわしたことがすばらしい。「バーンバン」のほかに、花火は「ドーン」「ヒュルヒュル」などの言い表わし方があります。この調子で川柳をたのしんでください。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

佳作 肉きゆうが大福みたいぷにぷにだ

城東小学校4年 関 晴香

佳作 はるをすぎおほりのさくらまいあがる

城西小学校4年 野本 彩菜

佳作 ぼくシュートゴールにささるもう一てん

平田小学校3年 池田 頼人

佳作 きもちいいみんなのためにくつそろえ

平田小学校3年 吉村 瑠莉

佳作 あきのよるだいどころからいいにおい

城陽小学校3年 巴 佐以子

佳作 カプトむしじゅえきをのんでうれしそう

城陽小学校3年 内堀 輝翔

佳作 ゆうひはねいえにかえるとしらせてる

城陽小学校4年 亀井 希愛

佳作 せんとうのおゆがぼかぼかやまけしき

城陽小学校4年 志萱 陽真

佳作 てんとう虫おちばにかくれふゆをまつ

佐和山小学校3年 大西 希実

佳作 ごみひろいみんなのためだがんばろう

佐和山小学校3年 高橋 桐真

佳作 秋の夜はすずむしたちの音楽会

佐和山小学校4年 岸本 直

入選 かんむりはれきしにのこるあかぞなえ

城西小学校4年 瀬尾 旺文

入選 ろうかばしてきを落ととしてしろまもる

城西小学校4年 高村 涼

入選 秋の空とんぼの羽が赤くする

城西小学校4年 植田 葵衣

入選 令和からなおしたいなあすききらい

城北小学校4年 岡本 蘭

入選 音読を気持ちよこめて読んでいく

城北小学校4年 小野 理彩子

入選 青い空どこまでつづくかしりたいな

城北小学校4年 北村 郁人

入選 スポ少でヒットをうったらさい高だ

平田小学校3年 磯崎 虎來

入選 うん動会で3位になれたぞうれしいな

平田小学校3年 寺村 大楽

入選 サッカーでぼくのキーパーママえがお

平田小学校3年 奥村 渉太郎

入選 おんがく会かぞくがみてるうれしいな

城陽小学校3年 櫻井 遥

入選 さつまいもほかほかしてておならでる

城陽小学校4年 寺寫 斗彪

入選 ふんわりときんもくせいがあきにおう

佐和山小学校3年 藤本 歩里

入 選 かえりみち大きな月がおつかれさん

佐和山小学校4年 奥 愛笑

入 選 夕日せにボールけりつつ家急ぐ

佐和山小学校4年 籠谷 宥哉

入 選 おかあさんいつもおしごとありがとうね

城北小学校3年 服部 紗希

入 選 かわいいなはこにすっぽりねむるねこ

佐和山小学校3年 堤 祐侘菜

入 選 さくらまうお花見しながら彦根城

城西小学校4年 松田 天音





## 【小学5年生・6年生】

特選 友達とわらって遊んでたからもの

城西小学校6年 植田 美咲

(評) 下五の「たからもの」を「楽しかった」と詠んでいれば選ばれなかった句です。

「たからもの」は友だちとの交流を大切にしている思いが、言葉には表わしていないが訴えていてふくらみのある句です。学校内のいじめや不登校などとは無縁の状況が想像されます。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

特選 あしたするそのあしたにもあしたやる

若葉小学校5年 権代 優紗

(評) 「あした」を三回もくりかえし、するべきことを先延ばしした意志の弱い自分を

詠んでいます。多くの読み手にもそうした面が多かれ少なかれあるので共感できる句です。ひらがなの「あした」を漢字の「明日」にすると、読みやすくてさらに良い句になります。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 使いたい高級シャンプーバレルかな

若葉小学校6年 磯嶋 紗帆

(評) シャンプーの価値がわかり、勝手に使ってはいけないとわかっているのに、好奇心で「使いたい」という強い思いをぶつけた良い句です。ただし、気になるのは下五の「バレルかな」のカタカナとひらがなを組み合わせた造語です。辞典にもないので、表現には気を配りましょう。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 秋が来た人もはっぱもころもがえ

城陽小学校6年 岩田 幸太

(評) 四季がある日本ならではの季節の移ろいを「ころもがえ」で表現しています。

人だけではなく樹木の葉が紅葉したり落葉することまでを含めています。さらに中七の「人もはっぱも」の「も」により、人の外観だけでなく、夏に何かあって、秋になって心のあり方も変わったのだろうかなどと、立ち止まらせる句です。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 暑い夏アイスクリームが汗をかく

佐和山小学校5年 目加田 叡

(評) 夏の暑さにアイスクリームが溶けて垂れ落ちる様子を「汗をかく」とみなして例えています。室内ではなく戸外なのだろうか。早く食べれば良いのになどと思っ  
てしまいます。上五の「暑い夏」を、「夏の午後」などと表現すればさらに暑さを表現できます。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 おとうとがにこつとわらいげんきでる

平田小学校6年 佐野 こはな

(評) 中七の「にこつとわらい」から歳の差のある弟のかなと想像しました。幼い子どもの笑顔には、だれもが癒されて元気が出るのもわかりました。身近な家族を題材にした句が少ないので、もつと詠んで欲しいと思います。

この句は全てひらがなの句なのですが、習った漢字は使ってください。

(彦根文芸協会 浅井 利行)

佳作 お年玉母にかしたらかえらない

城南小学校5年 中清水 初奈

佳作 先生は授業参観めっちゃお洒落

旭森小学校5年 井上 璃子

佳作 朝起きてあくびをしたら白い息

城西小学校6年 北村 希実

佳作 まん月の下ですすぎがせい比べ

佐和山小学校5年 小木曾 すみれ

佳作 すきま風秋のにおいを連れてくる

高宮小学校5年 西村 帆乃

佳作 ほうか後のポタポタたれる水道水

佐和山小学校5年 池部 晴登

佳作 マスカット皮をむいたらこんには

河瀬小学校5年 安田 絢音

佳作 大人たちはなしをするとながいよね

城東小学校6年 加藤 凜



入選 お母さんちよつとしたことですぐおこる

平田小学校6年 三輪 明璃

入選 梅開き旅立ちの日を待つ子ども

城陽小学校6年 成宮 一旭

入選 いもうとがアイスを食べたてしろいひげ

佐和山小学校5年 松村 朱璃

入選 ドキドキな君をおもうとくるしいよ

佐和山小学校5年 中林 奏佳

入選 ともだちとはなびみたいにはしゃぐ夜

佐和山小学校5年 岩田 美穂

入選 秋の風すずしい秋をつれてくる

佐和山小学校5年 米倉 和宏

入選 野菜室色あざやかにそまってる

城西小学校5年 安藤 菜佑

入選 かき氷どんな色でもつくれそう

城西小学校5年 徳永 明季

入選 あかとんぼあきのおしらせありがとう

高宮小学校5年 山田 ころろ

入選 あきのひはいろいろなあきあるんだよ

若葉小学校6年 西村 義央

入選 むこうまでぞうきんがけをしてみよう

鳥居本小学校6年 折戸 悠莉

入選 夕暮れを猫と見ながらあくびをする

城西小学校5年 多田 さくら

【中学生】

特 選 朝がきた今日も真鴨に笑われた

西中学校2年 中谷 篤司

(評) 「今日も」だから毎朝笑われているのだ。何を笑われているのかは分かっている。笑っている鴨もアイツだと見当はついてはいる。まあ、笑われても仕方のないことこの2つ3つは誰もが持っているものだろう。いくらかの反省をしつつ、笑わせよう。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 ひまつぶし給食表をながめてる

稲枝中学校1年 滝 優真

(評) ぼんやりと給食表を見ている。どうでもいいような、見逃してはいけないような献立が並んでいるが、内容はどうでも良い。起きているのか眠っているのか分からないような、そんなぼうっとした時間を持つことは、意外と大切だと思う。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 来年はまほう使って飛べそうだ

中央中学校1年 清水 健壺

(評) 実感句だと思う。一年ごとに体も大きくなり、心も豊かになり、いろいろ学べば何でもできるようになると感じるのは自然だ。しかし、魔法は本をしつかりと読み、練習をかさねないと身に付かないことを知っているだろうか。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 今日は雨ばくの心はいつも晴れ

中央中学校1年 村田 玲杏

(評) いいですね。晴れていても大雨の日も、吹雪の夜も心は満たされている。それは、たかさんの友だちがいるから、部活動に打ち込んでいるから、見守ってくれている家族がいるから。感謝をしながら、自分もまた誰かの心を明るくできれば、みんなの心が晴れる。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 テスト後になぜかふしぎな自信わく

南中学校3年 松村 実慶

(評) テスト後の自信。満点!という自信ではなくても。テスト前にはぜんぜんできそうもなかった問題が解けた。テストを受けたことで少しわかったこともある。試合本番でヒットを打った自信。まぐれではない。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 満月に思いを込めたコンクール

鳥居本中学校1年 曾根 周平

(評) 何のコンクールかはさておき、うまくできるよう、成功するようにと祈らずにはいられないものだろう。まん丸のお月さまをみて、よろしくと願い、心をこめての発表。その結果は書かれていない。そこがたのしい川柳。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 いまのせき席替えしてから最&高です

稻枝中学校1年 村井 煌

(評) 席替えは重大事だ。どこの列、前から何番目というだけではない。前後左右に誰がいるのか、教卓との間に見えている背中も気になる。そういうもろもろがあつて、ベストの席になったのだ。最と高の間の&になつとく。読むときはサイツツコウかな。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 誰もいない教室が私のお気にいり

南中学校3年 堀居 美里

(評) クラスメイトがいる。笑い声、ノートするエンピツの音、先生の声、あたたかな空気の中にあることが仕合せだと思う。誰もいない教室の中にそれらをより強く感じるものだ。このクラスのこの教室がお気に入りなのだ。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 七十点クシャクシャクシャクシャクシャクシャクシャクリサイクル

南中学校3年 善利 祐亨

(評) テストの結果が七十点だった。もっと良い点の自信があつたのに。クシャクシャクシャクシャクシャクシャクにチョット笑う。そして、そのどこかにムシャクシャクシャクも入つているなと思う。リサイクルのリとリベンジのリは同じだ。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

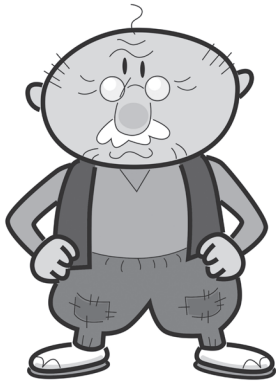
準特選 ケータイを窓から庭へ投げる祖父

南中学校3年 岡田 凜斗

(評)

おお、これはどうした。おじいさんが庭へケータイを投げ捨てる、その原因は何か。よほど気に入らないことがあったのだろうか、SNSに夢中になって勉強しない孫に腹を立てたというのを一番に思いつく。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)



佳作 テストの日まで側の席日があたる

南中学校3年 青池 玖瑠美

佳作 きたく部はらくだと思っていけません

稲枝中学校1年 小島 琉生

佳作 ホカホカの肉まんほおばりほほえみに

西中学校3年 野田 恵愛

佳作 叫びたい気付いて欲しい消しゴムに

南中学校3年 土川 咲輝

佳作 理科の先生なぞがふかいしおもしろい

稲枝中学校1年 西村 大哉

佳作 ボールペンインクもれたらすてとけよ

稲枝中学校1年 岡野 幸太郎

佳作 徒然が全く無いよ中学生

西中学校1年 中江 凧

佳作 三階の窓から見える色付く葉

稲枝中学校1年 柿添 みく

佳作 若者たちにおいていかれる若者の自分

中央中学校1年 久木 凜桜

佳作 秋の空トンボが飛んでいるのだよ

南中学校3年 疋田 斗亜

佳作 見上げると小春日よりの良い天気

中央中学校1年 井村 小春

佳作 ケース開け楽器の冷たさに冬感じる

西中学校2年 水野 祈星

佳作 持って来いどんなトスでも決めてやる

西中学校3年 杉本 迅

佳作 テキストが殺意を向けてやってくる

南中学校3年 宮坂 駿斗

佳作 秋になり気持ちのよゆうなくなるね

南中学校3年 疋田 幸志郎

入選 もみじ散る体育祭で力だす

南中学校3年 荻原 空大

入選 日曜日外には風の子内には自分

西中学校3年 藤野 颯大

入選 数学よ俺の足を引っ張るな

南中学校3年 野瀬 光基

入選 国語科はセンスがあればできちゃうよ

南中学校3年 古川 泰聖

入選 トナカイさんまっかなお鼻はどこですか

中央中学校1年 西村 一真

入選 一〇〇点を取れると言って五〇点

西中学校3年 大谷 創志

入選 風にのり飛んで行きたい秋の空

稻枝中学校1年 池野 楓

入選 おかえりといつもやさしい母のこえ

彦根中学校3年 古川 藍子

入選 点悪い心も空も泣いている

南中学校3年 堀 大和

入選 お母さんどうかテストを忘れてよ

南中学校3年 古川 みさき

入選 満月に月見団子をおすそ分け

南中学校1年 林 志優

入選 かいだんをふみはずしたらスネいたい

西中学校1年 久良木 律



入選 つかれたな体力つかうテストの日

南中学校3年 舟越 風花

入選 スポーツは相手がいてこそ強くなれる

稲枝中学校1年 西津 結安

入選 テスト見てわたしの心は雨模様

南中学校3年 南部 颯花

入選 雨降れば自分のバイブスダウンする

南中学校3年 田中 颯太郎

入選 マスゲーム泥汗まみれが美しい

南中学校3年 中村 康臣

入選 ヒラヒラとオレンジの葉が落ちていく

西中学校1年 中川 穂香

入選 伝えたい普段は言えないありがとう

南中学校3年 田中 もも

入選 どんぐりをほおぼるリスはどこにいる

南中学校3年 中村 優作

【総評】

今年には昨年の約二倍の応募がありました。川柳に興味を持ってくれた小・中学生のみなさんが増えたのだと、関係者一同喜んでいきます。

川柳には毎日の生活の中でうれしかったこと、びっくりしたこと、面白かったこと、悲しかったことなど、何でも表現できます。五七五の十七音で表せばいいのです。とは言っても難しいと思います。不思議なことに、日本語には五文字、七文字の言葉がたくさんあります。本を読んでいる時、テレビを見ている時、少し気をつけてみてください。たくさん見つけられます。自分の気持ちを表す言葉を、ゲームのつもりで並べたり、並べかえたりして遊んでください。なれてくると、おもしろい川柳がたくさんできますよ。学校で習った漢字で味付けすると、十七音がカッコよく見え、自分の気持ちを読み手に伝わりやすくなります。気楽に川柳で遊んでみませんか。来年もたくさんの方の応募を待っています。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

